

「特別の教科 道徳」の実施に向けて

＜その3＞

「特別の教科 道徳」（道徳科）の完全実施に向けた改訂のポイントです。

前号＜その2＞に引き続き、第3・4学年段階の内容項目について変更点等を確認します。

小学校第3学年及び第4学年の内容項目

小学校第3学年及び第4学年（20）	
A 主として自分自身に関すること	
善悪の判断， 自律，自由と責任	(1) 正しいと判断したことは、 <u>自信をもって</u> 行うこと。
正直，誠実	(2) 過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。
節度，節制	(3) 自分でできることは自分でやり、 <u>安全に気を付け</u> 、よく考えて行動し、節度のある生活をする。
個性の伸長 希望と勇気， 努力と強い意志 真理の探究	(4) 自分の特徴に気が付き、 <u>長所を伸ばす</u> こと。 (5) 自分でやろうと決めた <u>目標に向かって</u> 、強い意志をもち、粘り強くやり抜くこと。
B 主として人との関わりに関すること	
親切，思いやり	(6) 相手のことを思いやり、進んで親切にすること。
感謝	(7) <u>家族など生活を支えて</u> くれている人々や <u>現在の生活を築いてくれた高齢者に</u> 、尊敬と感謝の気持ちをもって接すること。
礼儀	(8) 礼儀の大切さを知り、誰に対しても真心をもって接すること。
友情，信頼	(9) 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。
相互理解，寛容	(10) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。
C 主として集団や社会との関わりに関すること	
規則の尊重	(11) 約束や社会のきまりの <u>意義を理解し</u> 、それを守る。
公正，公平，社会正義	(12) 誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。
勤労，公共の精神	(13) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。
家族愛， 家庭生活の充実	(14) 父母，祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。
よりよい学校生活， 集団生活の充実	(15) 先生や学校の人々を敬愛し、みんな協力し合って楽しい <u>学級や学校</u> をつくること。
伝統と文化の尊重， 国や郷土を愛する態度	(16) 我が国や郷土の <u>伝統と文化を大切に</u> し、国や郷土を愛する心をもつこと。
国際理解， 国際親善	(17) 他国の人々や文化に親しみ、関心をもつこと。
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	
生命の尊さ	(18) 生命の尊さを <u>知り</u> 、生命あるものを大切にすること。
自然愛護	(19) 自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にすること。
感動，畏敬の念	(20) 美しいものや気高いものに感動する心をもつこと。
よりよく生きる喜び	

小学校第1・2学年に続いて第3・4学年の内容項目を見ていきましょう。



小学校第3・4学年では、新たに二つの内容項目の追加があり、項目数は20になりました。

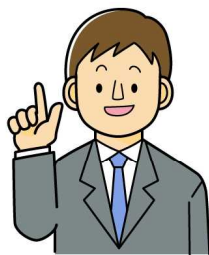
B-（10）は、自分と異なる立場や考え方などを理解し、望ましい人間関係を構築することを重視して加えられました。

C-（12）は、差別や偏見をもつことなく、より一層集団や社会との関わりをもてるようにするために加えられました。

C-（16）は、従前の4-（5）と4-（6）における郷土及び国との関わりに関する内容を統合したものです。

C-（17）は、多様な文化を尊重し、国際親善に努めることを重視して、従前の4-（6）の中から取り出して位置付けられました。

※ 下線部分は、新たな文言の追加や変更点です。



ところで、新たに加わったB-（10）及びC-（12）は、「いじめの問題への対応の充実」を図る項目でもあります。
それぞれの内容項目の特質について、しっかり確認しておきましょう。

B-（10） 相互理解，寛容

〔第3学年及び第4学年〕

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。

相手から学ぶ姿勢を常にもち、自分と異なる意見や立場を受けとめることや、広い心で相手の過ちを許す心情や態度は、多様な人間が共によりよく生きていくために必要なものです。

いじめを生まない雰囲気や環境を醸成するためにも、互いの違いを認め合い理解しながら、自分と同じように他者を尊重する態度を育てることが重要です。

C-（12） 公正，公平，社会正義

〔第3学年及び第4学年〕

誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。



人間は自分と異なる考え方や感じ方、少数の立場や意見などに対し偏った見方をしたり、自分よりも弱い存在があることで優越感を抱きたいがために偏った接し方をしたりする弱さをもっていると言われる。いじめの問題なども、このような人間の弱さが起因している場合が少なくありません。

指導に当たっては、不公平な態度が人間関係や集団生活に支障を来し、いじめなどにつながることを理解させることが求められます。

内容項目間の関連性をもたせた指導を

具体的な状況で道徳的行為がなされる場合、一つの内容項目だけが単独に作用するということはほとんどなく、幾つかの内容項目が関連し合います。

いじめの問題について指導するに当たっては、上記の内容項目や、「D-（18）生命の尊さ」、「B-（6）親切、思いやり」、「B-（9）友情、信頼」などとの関連を十分に考慮したり、指導の順序を工夫したりすることが大切です。

なお、その際には、焦点が不明確にならないよう、ねらいを適切に設定してください。